

「ホルター心電図について」

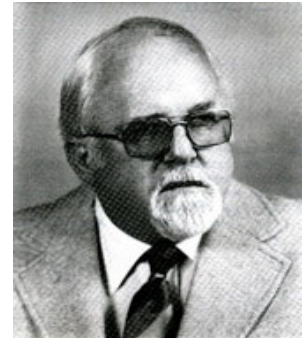
当院でも本当に頻繁に行われている検査です。

ホルター(Norman.J.Holter)というのは米国の物理学者の名前で、1950年頃、24時間心電図記録法を発表し、その後の電子工学技術の進歩により今日のような臨床的に使用しやすい装置に改良されてきました。当院でもこのホルター心電図は、年間約150～200症例あり、心臓病の診断には欠かせないものとなっております。



そのホルター心電図は、次の目的に広く使用されています。

1. 不整脈の診断、治療効果判定
2. 狭心症の診断、無痛性心筋虚血発作の診断
3. 自律神経機能の評価

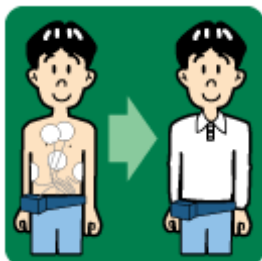


一般に心電図は心臓の状態を知るために広く用いられています。しかし、通常的心電図が記録される時間は僅かに数分以内に過ぎません。このような短時間の心電図記録ではなかなか診断は困難です。また、一部の狭心症(異型狭心症)や不整脈は夜間に好発します。このような状況下で心電図を記録するのは随分大変なことです。

心臓病の人が、日常生活や運動などをどの程度してよいかの判断を必要とする場合、実際の運動時の心電図がどうなっているかを知ることは生活指導を行う上で必要なことです。そういう判断はこのホルター心電図にて診断されるのです。また、ホルター心電図記録の解析は、コンピューターによる自動解析結果と全波形記録を肉眼で観察し、必要な部分の実時間記録を行って正確な診断を行う方法の両者が用いられているので非常に評価できます。

●長時間(ホルター)心電図検査を受けられる際の注意点

- (1) 検査当日は、お風呂やシャワーに入れません。
- (2) 翌日機械をはずし解析いたします。結果は次回の診察日にお聞き下さい。
- (3) 汗をかきやすい方は、電極のシールが外れやすいですので検査担当者にご申し付け下さい。
- (4) この検査は、人体に全く害はありませんので、妊婦の方、乳幼児の方でも安心して受けて頂けます。



ホルター心電図検査に関しましては、主治医にご相談下さい。

臨床検査科